

鹿沼高等学校の取組

【特色】市役所の全面的な協力のもと、平成 28 年度から「栃木県立鹿沼高等学校未来発展プラン」の一環でスタートしたクリエイティブ・フォーラム（鹿高型課題解決学習プログラム）を探究活動として行っている。課題の発見とその解決に向けて、主体的・対話的で深い学びの実践を図り、「思考力・判断力・表現力」の育成を目指している。

取組事例

○クリエイティブ・フォーラム（鹿高型課題解決学習プログラム）

- ・「総合的な探究の時間」を使った課題解決学習プログラム（1 年次小論文、2 年次地域課題解決学習）である。
- ・10 月の研究発表に向けて、4 月に鹿沼市企画課より市の概要説明を受け、6 月に生徒が作成した提案に対して各課からのアドバイスをもらい、夏期休業中に多くの人々に話を聞き探究の内容を深めている。
- ・プレゼンテーションなどの表現力向上に向けて、白鷗大学（平成 27 年度～高大連携協定）の協力により、大学生から指導を受けることとなった。
- ・「情報」の時間も活用しながら、2 年次の内容を行っている。また、今年度より 2 年次の内容を 1 年次の後半から実施している。
- ・活動後は、今後の活動に生かすために e-ポートフォリオへ記録している。

○家庭科の授業での保育体験学習

- ・市をとおして保育園に依頼し、平成 11 年度から放課後に家庭クラブの活動として、希望者が保育ボランティア活動をさせてもらっていた。その後発展させ、授業中での保育体験学習に形を変え実施していたが、時間調整が困難なことから、ボランティア部を中心に希望生徒が参加する形に戻している。

○部活動をととした地域活動

- ・地域からの要望は多いので、内容に応じて参加できる部が活動している。ボランティア部は平成 25 年度から活動をしている。
- ・生徒の参加については、全ての活動において、保険に加入している。

地域活動による効果・成果

生徒の変容

- 生徒は、地域の中で多くの人と関わり、自ら何ができるのかを考えて行動するようになっている。そして、これらの活動を学びの場と感じ取り、充実感を得ている。
- 総合的な探究の時間で、自分たちの研究について発表（プレゼンテーション）し、地域課題解決に向けた提案ができた。

学校への効果

- 参加生徒の取り組む姿を見て、次年度以降も、継続して活動を依頼する地域の方が多い。地域からの依頼については、同窓会・PTA の協力によるところが大きい。

地域活動がうまくいっている要因

- 校内では、学習指導部の係や地域活動に関わる教員が中心に行っているが、2 年次の学習内容で地域の協力が必要となり、対外的な全体調整を鹿沼市生涯学習課と連携し行うことで、活動が軌道にのっている。
- 高大連携協定により、プレゼンテーション力の向上のため、大学生が指導している。

活動しやすい環境整備のポイント

- ・地域連携教員が担当教員と情報を共有・相談し、学年全体で取り組める体制をつくることにより、多様な地域活動の展開につながる。
- ・地域連携教員が中心になり、時期が合わずに断っている地域活動の調整をすることで、活動の実践につなげるようにする。
- ・地域での活動情報を生徒に伝え、自主的に活動できる時間を確保できるように調整することで、生徒の自主性を生かせる活動につながる。